

情報公開用文書(附属市民総合医療センターで実施する医学系研究)

西暦 2022 年 6 月 17 日作成 (第 1.3 版)

研究課題名	肝細胞がんに対するレンバチニブの有用性と生存期間に寄与する因子の多施設共同研究
研究の対象	2009 年～2018 年 3 月までにソラフェニブを投与された肝細胞癌患者さん。 <u>2018 年 4 月以降にレンバチニブを投与された (レンバチニブ単独またはレンバチニブと肝癌局所治療を併用された)肝細胞癌患者さん。</u>
研究の目的	肝細胞癌患者さんに対するレンバチニブ治療の有効性、安全性を、過去にソラフェニブを投与された患者さんと比較し、各分子標的薬の有効性を検証します。 <u>肝癌局所治療 (肝動脈化学塞栓療法、ラジオ波焼灼療法)を併用したレンバチニブ治療の有効性、安全性を過去にレンバチニブのみを投与された患者さんと比較し、併用療法の有効性を検証します。</u>
研究の概要	2009 年から 2018 年 3 月までにソラフェニブで治療した患者さんと 2018 年 4 月以降にレンバチニブを投与された患者さんの治療成績；有害事象、治療効果、生存期間を比較検討します。 <u>2018 年 4 月以降にレンバチニブを投与され、肝癌局所治療を併用された患者さんの治療成績；有害事象、治療効果、生存期間を、肝癌局所治療を併用されていない患者さんとの比較を検討します。</u>
研究の方法	ソラフェニブ治療開始後の全生存期間、奏功に寄与する因子の検索を統計的に解析(多変量解析)します。また、レンバチニブの全生存期間、奏効に寄与する因子を検索し、ソラフェニブ、レンバチニブそれぞれの薬剤に有効な因子を同定することで、分子標的薬の層別化を行います。 <u>肝癌局所治療とレンバチニブを併用された患者さんの奏効、全生存期間に寄与する因子を検索し、肝癌局所治療の併用の有用性を検討します。</u>
研究期間	西暦 2018 年 5 月 1 日 ~ 西暦 2025 年 3 月 31 日
個人情報保護に関する配慮	情報は匿名化し、かつ他施設への提供はしません。
<p>本研究のために、患者さんにあらたな負担や危険が生じることはありません。患者さんもしくはご家族の方等がこの研究へのご参加を希望されない場合は、以下の連絡先までご連絡いただけましたら、その方の情報は本研究に利用しないようにいたします。本研究への参加をお断りになられたとしても、不利益になることは一切ございません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57</p> <p>横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター内科 中馬 誠</p>	

# 情報公開用文書(附属市民総合医療センターで実施する医学系研究)

電話番号：045 - 261 - 5656 (代表) FAX：045 - 253-9955